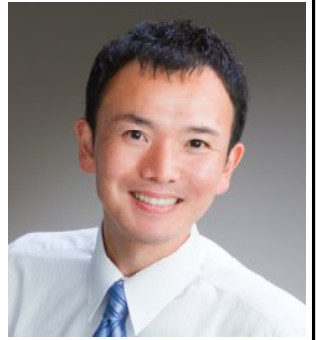


# 宮前ガバナンス

## 石田やすひろ・川崎市政報告



川崎市議会本会議場にて質問をする  
石田議員（平成23年12月21日）

### 平成23年度川崎市議会定例会 宮前区の保育所の拡充について質疑

川崎市議会の一般質問で、子供を安心して育てることが出来る環境を目指し、保育所の定員枠の拡充と整の拡充を求めました。特に宮前区は、子育て世代の多く集まる街です。そこで市に、宮前区内の保育所整備の現状と計画について訊ねました。

川崎市では、平成22年3月に「保育緊急5か年計画」(改訂版)によって、大幅な保育受け入れ枠の拡大を図ってきました。そして、今年度より新保育基本計画をス

タートさせています。平成23年度の認可保育所の整備では203園、定員1万7490人までの拡大を目標に整備を進めています。また、計画の3年間では4000人を超える定員枠の拡大も施策目標にして整備を行っています。

宮前区の認可保育園の施設数は、現在、21箇所です。麻生区の15箇所、次に次ぐ2番目に少ない箇所数となっています。隣の高津区ではほぼ同規模の人口を擁しながら29箇所あり、単純に比較したとしても8箇所の差があり、極めてバランスの欠く配置となっている実態もあります。

加えて、宮前区の人口は、現在の22万541人です。将来人口推計によると平成32年には、22万4300人まで増加することが見込まれています。その内、0歳から4歳の推移は、減少が見込まれている一方で、継続的な整備拡充が求められる一方で、

いるところ。続きは裏面

### 石田やすひろプロフィール

川崎市立犬蔵中学校卒業、明治大学公共政策大学院修士、国会議員の秘書を経て、28歳の若さで初当選。現在4期目。議会では、健康福祉委員長、市民委員長を歴任し、子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成しその内容を積極的に市政報告を実施。

### 石田康博事務所

〒216-0035  
住所 川崎市宮前区馬絹531-2

TEL 044-861-6870  
FAX 044-854-0798



### ホームページ公開中

市民意見・政治に関するご意見は

「石田やすひろ公式ホームページ」から！

ブログ連日、更新中



<http://www.ishidayasuhiro.com>

# 宮前区内の待機児童の解消を目指した 保育所の整備拡充策を議論



平成25年度に土橋4丁目地区に開所予定の  
保育所予定地

議会質問では、宮前区内の年齢別待機児童数と、定員枠拡大を目指した計画数についてなど訊ねました。

子ども本部長の答弁では、宮前区の平成23年4月時点での年齢別待機児童数は、0歳児が28人、1歳児が54人、2歳児が51人、3歳児が22人、4歳児が7人、5歳児はいません。合計162人となっているとの回答でした。

宮前区の保育所整備計画については、平成24年4月の開所へ向けて、鷺沼2丁目に定員60人、宮前平2丁目に定員30人の保育所の整備を、それぞれ進めているところですが、平成25年度は、土橋4丁目の定員240人、野川に定員60人の保育所をそれぞれ整備する計画です。

宮前区内の待機児童数は、これらの整備により、減少につながるものと考えていますが、今後も田園都市線沿線を中心とした、利便性の高い地域での保育需要の高まりが

見込まれることから、引き続き、既存施設の改修による保育所整備や、民有地を活用した保育所整備等も進めていくと回答がありました。

土橋には市有地貸与型の保育所整備計画の運営法人の決定がありました。また、野川では、(仮称)野川地内保育所整備計画があります。こちらは、国有地活用型保育所整備事業の設置に向けて運営法人が決定となりました。

そこで質問は、それぞれの概要について訊ねました。また、事前の調査によると、宮前区内の公有地の売却可能資産は、22箇所あります。こうした公有地を対象に積極的な活用を図るべきであると提案し、今後の方針についても訊ねました。

子ども本部長の答弁では、(仮称)土橋4丁目地内保育所については、旧水道局鷺沼公舎の跡地を活用した保育所整備です。

定員240人と市内最大規模で、一時保育事業の実施及び地域子育て支援センターを併設することとしています。また、広域的な利用を見込み、駐車場も整備することとしています。設置・運営法人は、社会福祉法人大慈会です。

(仮称)野川地内保育所については、国の新成長戦略に基づき、国有地を活用した保育所整備事業となっています。定員は60人、設置・運営法人は社会福祉法人星様です。

整備スケジュールについては、2施設とも平成24年度に建設工事を行い、平成25年4月の開所を予定しています。

今後の公有地の活用方針は、これまで市有地を積極的に活用し、保育所整備を進めてきました。今後についても、保育所に



平成25年4月の開所を目指す、野川地区の  
保育所予定地

適した公有地につきましては、積極的な活用に取り組んでいくとの答弁でした。

宮前区の保育所整備の必要性は、先ほど示した通りであり、整備に向けた受け入れ枠の拡充が必要です。宮前区の地理的特徴にある山坂が多い環境により、通園に自動車の利用が見られています。これまでの施設の設置状況を見ると、駐車場の付設はあまりされていませんでした。整備にあたっては、用地面積の関係もありますが、駐車場の確保についても考慮して頂くよう市に要望致しました。

また、待機児童については、特に、年齢別待機児童数をみると、0歳児からの受け入れが加わることから、1歳児の待機者が多くなっています。待機児童の解消に向けて、保育需要の高い年齢の児童が、多く入所出来るような定員設定を、市にお願い致しました。加えて、定員超過の受け入れについても積極的に推進するよう要望致しました。